

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所くるみ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 3日		2026年 2月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 27名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者に対して面談や療育に関する助言等の支援をすること。	年に3回ほど個別面談を実施し、連絡帳でも相談があった際にはその都度アドバイスをしている。1年に1回園訪問することで園生活の様子を把握し、より具体的な助言ができるようにしている。	研修等で専門性を深めることで、よりの確かな助言ができるよう努める。また、専門職(公認心理師)の助言を求めらることで、より発達・状況に沿ったアドバイスができるよう努める。
2	定期的に会報やホームページ等で活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信している	毎月課題表を通して行事予定等を保護者に伝えている。また、毎月月初めに「くるみ通信」を発行したり、ホームページに写真を掲載することで活動の様子を視覚的に伝えている。	保護者から「写真の更新をいつも楽しみにしている」との意見があったため、タイムリーにギャラリーの更新ができるようアプリ等の使用を検討する。
3	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	支援内容や役割分担だけでなく、その日の活動の目標やねらいもリーダーから伝えることで、ポイントをおさえた支援に繋がっている。また、朝の打ち合わせの際に面談の報告も行うことで、利用児の状態把握をした上で関わるができている。	相談員も交えたケース検討会議を行うことで、より発達や状況に沿った支援を行えるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアル等を保護者に周知・説明できていない。	緊急時の対応についてマニュアルの作成等取り組んでいるが、保護者に対して周知・説明できていない。	今後、作成したマニュアルに沿って、保護者に対して保育参観等の機会に周知・説明していく。
2	保護者に対してペアレントトレーニングが行われていない。	2歳児については親子通園を実施しており、その際行動観察をした上で直接関わり方等を伝えているが、それ以外の年齢の利用児についてはペアレントトレーニング的なものを行っていない。	・保護者から良い対応方法の参考書籍を紹介してほしいと要望もあったため、何冊か本を購入し保護者に貸し出したり、勉強会を開催することで子どもの特性理解を深めたい。 ・法人として市から委託されてペアレントトレーニングを実施しているため、利用している保護者にも還元できないか検討する。
3	従業者評価でPDCAサイクル・ガイドライン等の質問事項に対して「どちらでもない」・「分からない」との記入がいくつかあった。	非常勤職員に対して説明不足な点があった。	伝える仕組みをマニュアル化することで周知を徹底する。